

なまはげ



銀色天井秋田
Silver Ship at Akita

秋田弁ひとり芝居
脚本構成演出 出演／進藤則夫 (帰ってきたえびす)

あけ^{赤い}えつらは俺の誇りだ^{だけ}ば

KTstudioにて

2018年3月10日(土)～2019年2月11日(祭)

なして秋田弁なんたがー

2011年によ 時限劇団として「怪談秋田牡丹燈籠」ってのを、秋田駅とつながってらアルヴェで演(ヤ)ったんだども。それどこ全部秋田弁でやったのよ。したらよ それどこ観に来たった高校生がたさ 秋田弁が通じなかったのよ。「わからない。聞き取れない。」って言うのよ。俺は今 東京さ住んでらからな 台詞どこ秋田弁にするのにも かなり標準語さ ちけくしたつもりでいたったんだども、そえでもわからねがったって 言うんだものな。俺がたの言葉がわからねって! なんとして、はあ、これだば、あと他人事などでねでば。つて思い知らさせられた。秋田弁がね(無)くなっていくのがまなぐ(目)さ見えた瞬間だった。

どてするくらいのスピードで秋田弁がね(無)くなっていってらあんだと思う。今50、60になるのがしゃべってら秋田弁がね(無)くなれば、あと 秋田弁はすんげ勢いで一気^にね(無)くなっていくべな。ま^んず50、60になるのがしゃべってらのだって どこまで秋田弁なんだかつてな。じっちゃんばっちゃんがたの秋田弁が孫がたにはもう伝わっていつてね(無)えしな。

それで、今からはよ わざと秋田弁でしゃべっていかねばならねえ。秋田弁どこおもしえがついていかねばならねえ。そういう機会どこ作っていかねばならねえと思立ったのよ。

秋田弁さは秋田の文化が染み込んでら。秋田弁は秋田の宝物だでば。秋田弁で芝居を演(ヤ)る意味はここさあると思う。この公演さ来てけで、そえで 楽しんでけたら、こんたら おもしえことね(無)えなあ。

ちなみによ 俺が思うによ 小中高と続けて秋田弁の科目があるべきなんでねえべかなあと、そう思つてら。今すぐにでも必要だ。

銀色天井秋田企画公演 秋田弁ひとり芝居

なまはげシラノ

2018年3月10日(土)～2019年2月11日(祭) KTstudioにて

脚本 構成 演出 出演/進藤則夫 (帰ってきたあびす)

STAFF

原作/「シラノ・ド・ベルジュラック」
 エドモン・ロスタン 作
 美術・小道具デザイン/中村一海
 音楽/岡田健太郎
 振り付け/美里
 衣装/puku
 チラシデザイン/小幡悦子
 演出助手・小道具製作/石井千里(多少婦人)
 受付/田中昌子
 web/南浮真亮 滝すみか
 協力/小館和美 小寺久枝事務所
 帰ってきたあびす 多少婦人
 制作/進藤則夫
 後援/秋田県
 企画・製作/銀色天井秋田

KT studio

東京都渋谷区神宮前
4-13-8-B1



TICKET

日時指定・全席自由。各回20名様限定。
 当日ご来場の場合には空き状況をお確かめの上ご来場下さい。
 一般 予約前売 ¥1000 / 当日 ¥1500
 中高生 前売当日共 ¥500
 (劇団受付のみ、ご来場時学生証提示)

チケット取り扱い

劇団事務所 03-3898-6375
 (留守番電話対応)
 ◆銀色天井秋田、情報発信基地
<https://ameblo.jp/ginirotenjyouakita>
 (こちらから最新情報やチケット予約、
 残席数の確認ができます)

チケット予約フォーム



銀色天井秋田とは――

2014年1月 進藤則夫、佐藤正和、山崎栄、番場政司で結成。2015年 八百屋忠司参加。
 2016年より柴田郁子参加。私達は秋田の言葉、歴史、人を真ん中に置いて表現活動を進めて行きます。

来たれ! 同志!

一緒に活動していく仲間を募集しています。経験年齢不問。
 情熱を携えて「表現者」として生きることを始めてみませんか。お手伝いならばという方の参加も大歓迎。

TIME TABLE

毎月第2週末、土曜19時、日曜・1/14(祝)・2/11(祝)13時 開演

	3/10 (土)	11 (日)	4/14 (土)	15 (日)	5/12 (土)	13 (日)	6/9 (土)	10 (日)	7/14 (土)	15 (日)	8/11 (土)	12 (日)	9/8 (土)	9 (日)	10/13 (土)	14 (日)	11/10 (土)	11 (日)	12/8 (土)	9 (日)	1/12 (土)	13 (日)	14 (祝)	2/9 (土)	10 (日)	11 (祝)	
13:00		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●	
19:00	●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●

曜日によって開演時間が異なりますのでご注意ください。開場は、開演の20分前。受付開始・入場整理券発行は1時間前からとなります。上演時間45分を予定。

お問い合わせ

劇団事務所 03-3898-6375(留守番電話対応) 公演当日 090-1703-2458(進藤)
 〒121-0822 東京都足立区西竹の塚 1-11-2-1404



銀色天井秋田
Silver Ship at Akita



なぜ秋田弁なのか――

2011年に時限劇団として「怪談秋田牡丹燈籠」を秋田駅隣接のアルヴェで上演しました。それを全編にわたって秋田弁でやったのですが、観に来てくれた高校生たちには、その方言が通じなかったのです。「わからない。聞き取れない。」と言うのです。自分が現在は東京在住ということもあって、台詞はかなり標準語寄りにしたのですが、それにも関わらず通じなかったのです。「言葉が通じていない! これはもはや他人事ではないぞ」と実感したのです。秋田弁の消滅が現実的な問題として見えた瞬間でした。

物凄い速度で秋田弁が消えていっていると考えられます。今の50代60代の方々の方言を最後に、秋田弁はその加速度を上げて、一気に消滅の一途をたどるでしょう。実際には、この世代も方言から離れつつある状況です。そしてその祖父母たちの方言が孫たちに受け継がれてはいくとも考えられないからです。

そうして、これからは取返して、意識して秋田弁を話していかなければならないのではないかと考えたに至りました。

秋田弁には秋田の文化が染み込んでいます。秋田弁は秋田の宝物です。秋田弁で芝居をしようと思った理由がここにあります。この公演に足を運んで頂ければ、そして楽しんで頂ければ、これ程うれしいことはありません。

ちなみに、自分は小中高と一貫して秋田弁の科目を作るべきだとも考えています。早急に。

進藤則夫